

(案)

平塚市地域公共交通網形成計画 中間評価及び一部改訂



令和 7 年(2025)年 3 月
平 塚 市

1 中間評価の目的

令和元年(2019 年)5月に策定した平塚市地域公共交通網形成計画は、計画の策定期間が令和9年度(2027 年度)までの9年間となることから、中間年度となる5年目を目途に必要なに応じて中間評価を行い、施策や目標値の見直しを検討するとしています。

このため、令和6年度に中間評価を実施し、部分的な見直しを行いました。

2 平塚市地域公共交通網形成計画 評価指標の達成状況について

全11項目中、8項目で目標を達成しました。令和7年3月14日開催の平塚市地域公共交通活性化協議会にて、達成状況の中間評価をいただきました。

《達成項目》

施策体系名	評価指標	目標達成状況 (⇒は最新の数値等)
バスの公共交通 軸の整備強化	路線バスの利用割合 (目標:東京都市圏パーソントリップ調査における交通手段分担率【バス】の向上)	約 2.9% (H20) ⇒ 約 4.7% (H30)
地域内交通の整備	交通の利便性の向上に対する満足度 (目標:平塚市市民意識調査における満足度向上)	評価点-0.02% (H30) ⇒ 評価点-0.01% (R4)
バリアフリー化 の推進	ノンステップバスの導入台数 (目標:平塚営業所の在籍車両の約 80%に導入した場合の 両数(128 両/160 両))	96 両/163両 ⇒ 130両/160 両 (R6)
交通結節点の整備	主要バス停上屋の設置箇所数 (目標:86箇所)	84箇所 ⇒ 88箇所 (R6)
	平塚駅周辺駐輪場の収容台数 (目標:増加)	11,714 台 (H29) ⇒ 11,774 台 (R4)
	バス停付近駐輪場の設置箇所 (目標:増加)	8 箇所 (H29) ⇒ 14箇所 (R6)
利用促進事業	公共交通の利用割合 (目標:東京都市圏パーソントリップ調査における交通手段分担率【鉄道、バス】の向上)	約 16.4% (H20) ⇒ 約 21.1% (H30)
	交通の利便性の向上に対する満足度(再掲) (目標:平塚市市民意識調査における満足度向上)	評価点-0.02% (H30) ⇒ 評価点-0.01% (R4)

《未達成項目》

施策体系名	評価指標	目標達成状況 (⇒は最新の数値等)
鉄道の利便性 向上の促進	JR 平塚駅の利用の促進 (目標:1 日あたりの乗車人員について現状維持)	約 62,000 人/日 (H29) ⇒ 55,356 人/日 (R5)
バスの公共交 通軸の整備・ 強化	交通の利便性の向上に対する満足度 (目標:厚木方面(平 53)、伊勢原方面(平 90)、秦野方面(平 71)の 移動時間短縮)	既存路線の時間短縮はなし
バリアフリー 化の推進	UD タクシーの導入台数 (目標:国の導入目標に基づく、県内の導入率である約25%(62 台 /245 台))	13 台(H29) ⇒ 45台/245 台(R6※見込)

3 平塚市地域公共交通網形成計画 主な達成施策について

評価指標の達成を構成する個別の施策について、達成した内容の一部をご紹介します。



【幹線バスの整備・強化】

平塚駅北口～ツインシティ大神～本厚木駅南口の急行便を運行開始(R5.4)



【幹線バスの整備・強化】

平塚駅北口～東海大学前駅南口線を運行開始(R6.12)



【既存路線バスの確保・維持、改善】

平塚駅南口エリアで自動運転バス実証実験を実施(R5 年度～)



【交通施設等のバリアフリー化】

ノンステップバス導入補助。平塚営業所の路線バス 160 両中、130 両がノンステップバス化(R6 年度末時点)



(参考)公共交通の GX 化

環境基本計画に基づく脱炭素社会の実現に向けて電気バスの導入を補助(R4 年度～)



【重点整備地区の交通施設整備】

平塚駅北口の下りエスカレーターを整備(R4.7)
既存エレベーターによる駅改札階と地上階のバリアフリー経路確保

4 今後の取組みについて

令和10年度予定の本計画の改定(平塚市地域公共交通計画の策定)を見据えながら、現在の取組みを引き続き推進していきます。また、新たに岡崎地区の交通課題に関する協議(後述)を住民協働で推進していくほか、平塚駅ホームドア設置に向けた取組み等を進めていきます。

(参考) 岡崎地区における交通課題に関する協議状況について(令和7年2月時点)

STEP 0

バスやタクシーなど、既存の公共交通を活用した場合の利便性や交通事業者の取組を把握

R6.3

岡崎地区の自治会等、様々な地域団体で構成する、岡崎地区地域活動推進会議(以下、「地活会議」)にて、市から市内公共交通の現状やコミュニティ交通の種類などを説明。

STEP 1

地域住民グループ(単位自治会等の概ね5世帯以上のグループ)で交通の困りごとを話し合い、市と相談

R6.6

市と交通課題を解決するグループとして、地活会議の下部組織とした企画委員会を発足。

みんなで
やっています!



STEP 2

需要予測など地域のニーズを把握し、路線バスの再編などで解決できるか検討

・R6.11.1～R6.12.13

「岡崎地区における交通課題に関するアンケート」実施。

・R7.1

企画委員会にて、アンケート結果の詳細に基づき、今後の進め方等を協議

STEP 3・4

コミュニティ交通の導入で検討できるか検討
コミュニティ交通やその他の移動手段で解決できるか検討

・R7.3(予定)

アンケート内容の詳細や、企画委員会で議論した今後の進め方、平塚市地域公共交通活性化協議会の協議内容等について報告。

・R7年～

地区外を結ぶコミュニティ交通の実証運行等に向けて、運行の目的、運行ルート等の実施方針や、実証運行を開始した際の、運行継続の条件等の議論を進める。
あわせて、地域内交通の導入や路線バスの在り方等について議論

5 計画の一部改訂について

平塚市総合計画～ひらつか VISION～(令和 6 年 2 月)に位置付けた自動運転バスの運行について、平塚市地域公共交通網形成計画を改訂し、次のとおり施策として位置づけました。

(2)－①－2 施策体系・施策メニュー		(2)公共交通の利用が不便な地域への対応 ①地域内交通の整備 ◇既存路線バスの確保・維持、改善			
対象地域・箇所		・平塚駅南口エリア			
施策の背景		【取組みの背景】 市内の路線網は平塚駅を中心に約 70 系統運行されていますが、運転士不足が深刻化する中、バス路線の確保・維持が最重要課題となっています。 【取組み方針】 平塚駅南口エリアのバス路線に自動運転バスを導入し、ねん出した運転士を平塚駅北側エリアに再配置することで、運転士不足改善の一助とします。			
施策内容		<路線バスへの自動運転技術導入> ・自動運転レベル4に向けた自動運転バス実証実験の実施 バス事業者とともに、平塚駅南口エリアの既存路線の自動運転化を進めるべく、大型路線バス車両による自動運転実証実験に取り組み、令和9年度までに 1 路線で自動運転レベル4を実現することを目指します。 まずは既存バス路線である平 15 系統(平塚駅南口～すみれ平～平塚駅南口)の自動運転化を進め、将来的に平塚駅南口エリア全体のバス路線を自動運転化することで、運転士不足改善の一助として、本市全体のバス路線の確保・維持につなげます。 ・平塚駅南口駅前ロータリーの改修 平塚駅南口駅前ロータリーは、バス、タクシー、自家用車、自転車、歩行者等の交通動線が複雑に交錯し、安全面や自動運転バスの走行に課題があります。このため、自動運転バスの実証実験を契機として、これらの課題を可能な限り解消すべく、駅前ロータリーの改修を進めていきます。			
役割	実施主体	・平塚市 ⇒ 実証実験の事業主体、			
	協力 協議・調整	・バス事業者 ⇒ 実証実験の管理運営、自動運転バスの運転 ・道路管理者 ⇒ 道路許可(占用許可等) ・交通管理者 ⇒ 交通協議 ・運輸局 ⇒ 自動運転レベル4に向けた審査、許認可等			
スケジュール			2025	2026	2027
		自動運転バス実証実験 の実施		自動運転レベル4認可	
		平塚駅南口駅前ロータ リー改修		調査設計等(※)	

※整備時期等は関係機関との調整による